

## 現場と私

みらい建設工業株式会社  
東北支店工事部  
横手作業所

たきの さわじゅり  
滝野澤朱里



### 私のルーツ

私は北海道函館市で生まれ育ちました。函館は青函連絡船記念館摩周丸や五稜郭公園といった歴史的観光地の他にも函館山や立待岬等、自然を身近に感じられる環境であり、学生時代は船で沖に出て釣りをしたり、夜景スポットまでドライブしたりと活発に過ごしていました。

私が土木に関わるきっかけとなったのは、中学三年生の時、学校パンフレットに記載されていた「就職率一〇〇%」に魅力を感じ、函館高専に入学したことです。私の代から一年生は混合学級で全ての専門分野の基礎知識を学び、二年生の学科選択の時に「海で仕事がしたい。マリコンに就職しよう」と思い立ち、社会基盤工学科に進みました。

入社当時は、業務内容の理解が足りておらず、上司に指示されたことをこなすことで精一杯でした。初めての配属先では不安の多い中、気さくに話しかけていただいた上司、先輩の方々のおかげで精神的に救われていたと思います。社会人としての基礎から叩き込んでいただきました。先輩方の、率先して仕事に取り組む姿勢をみて、私もこうなりたいと強く思いました。

### これまでの業務について

みらい建設工業(株)に入社して今年で四年目になります。一年目から二年目までは東北地方整備局発注の八戸港の浚渫工事と

消波ブロック据付工事、三年目に東北農政局発注の横手西部農業水利事業 吉田幹線排水路(その一六) 工事の現場に従事しました。

八戸港の浚渫工事は、航路水深を維持するために、港内に堆積した土砂を撤去する工事でした。本工事は、ポンプ浚渫船という特殊な作業船を使用して海底に堆積した土砂を船内の大型ポンプで吸い上げ、総延長六・七kmの排砂管を通して陸上の土捨場へ運搬するものでした。私の主な業務は、音響測深機を用いて深淺測量を行い、日々の出来形を管理することでした。

八戸港の消波ブロック据付工事は、防波堤が受ける波力を減衰させて防波堤の被災を防ぐために、防波堤の港外側および先端部に消波ブロックを設置する工事でした。私の主な業務は、消波ブロックの据付位置に偏りが生じないように据付位置を座標で正確に管理し、据付位置を指示することでした。

三年目に従事した水路改修工事は、横手西部土地改良事業計画に基づき水田地帯の排水施設の機能回復・湛水被害の解消・施設の維持管理の軽減を図るための工事でした。

本工事を行う横手市は、秋田県の南東部に位置し、奥羽山脈と出羽山地に囲まれた横手盆地の南部にあたります。伝統行事の「かまくら」が有名で、秋田県でも指折りの豪雪地帯となります。また、水稻を中心に、大豆・そば・野菜等を組み合わせた複合経営が進展しており、県内トップの農業生産基地になっています。

本工事は、周辺の営農等に支障が生じないように冬季期間の二月末



横手市のかまくら館にて



女性技術者見学会にて（説明しているのが筆者）

までに護岸工と分水工を完了させなければなりません。施工順序は、初めに河川の流水を鋼矢板・大型土嚢堰堤にて仮廻し、分水工の既設撤去・法覆護岸工・現場打ち分水工の築造・付帯工事を順次行った後、通水・仮廻し施設の撤去・水田地帯の整地を行うものでした。

今年一月には一五年ぶりに陸上自衛隊の災害派遣が要請されるほどの積雪がありました。そのような状況下において、私にとって初めての陸上工事の上、降雪中での作業であったため、日々の安全を確保しつつ、品質向上と工程遵守に十分配慮しながら慎重に工事を進めました。私の主な業務は、丁張設置や分水工構造物の材料検収および鉄筋工・型枠工等の出来形確認でした。本工事を通じて、予測困難な条件下であれば、より詳細に先を見据えて、何パターンもの対策案を考えることが重要であるということ学びました。

## 女性も働きやすい社会に

工事現場の仕事には、きつい・汚い・危険の「3K」のイメージがついて回ります。そのイメージを完全に払拭することは難しいと思っています。実際、現場のトイレや休憩所は決して綺麗な環境とは言えませんが、今は「女性の活躍推進」のもと、トイレや更衣室等の設備は男女別になっており、会社の福利厚生も充実してきているので、女性にとって働きやすい環境になっていると思います。建設業界も働きやすい職場をアピールしていけば女性職員が増え、それに伴い職場環境もさらに良くなると思います。

当社では、三年前に「みらい小町の会」と名付けられた女性事務職、技術職の交流の場ができました。そこでは実際に働いていく上で抱える女性ならではの

の悩みを打ち明けることができます。このような悩みや不安を率直に伝えることができ、環境は、建設業で働く人にとって、とても大切だと感じました。

土木の仕事は、自分の能力を活かし、地域や社会に貢献できるため、とてもやりがいがあります。経験を積みながら、自分自身がどんどん成長できる仕事だと身をもって感じています。今後もこの仕事を

を続けていきたいと思うのと同時に、女性技術者が今後増えていく中、働きやすい・復帰しやすい、多様で柔軟な社会が実現していくことを切に願います。

次回は、佐藤工業で活躍されている米田さんへバトンを引き継ぎたいと思います。

滝野澤さんありがとうございました。バトンを受け取ります。次号では、建設業界で異動や転居を通して感じたこと、また今後の働き方について私なりの思いをお話したいと思います。よろしくお願ひします。

佐藤工業株式会社  
土木事業本部 設計部 設計第一課

米田 咲



「みらい小町の会」の集合写真（前列右端が筆者）